

リトアニア経済の波濤

県商工会議所連合会・
岐阜商工会議所視察

「このアイスクリームはうまいな」。リトアニアのカウナス市役所で開かれた県商工会議所連合会などの経済視察団と同市の現地企業との交流会で、現地企業が用意した自社商品を味わった視察団のメンバーは口々に感想を述べ合った。

交流会は、視察団メンバーの養蜂・食品製造の秋田屋本店(岐阜市加納富士町)と現地の蜂蜜輸出業者が、リトアニア産蜂蜜の日本での普及を図る覚書を締結した会場で調印式に続いて実施。秋田屋は同業者を通じて年内に蜂蜜を輸入する予定だ。

リトアニアにとって、農業製品は重要な輸出産品。在日リトアニア大使館のアスタ・ザヴェツキエネ三等書記官が「イタリアの飲食店で出されるチーズの10%はリトアニア産」と言っただけ乳製品の評価は高い。視察団に参加し、交流会で現地企業のナチュラルチーズを試食したパローホー

農産品 対日輸出へ攻勢

下 蜂蜜、乳製品 品質に高い評価



カウナスの企業と交流する県商工会議所連合会などの経済視察団のメンバー＝今月7日、リトアニア・カウナス市役所

ルディングスの田代正美会長兼社長は「日本はプロセスチーズが中心だが、最近ではナチュラルチーズも増えている。このチーズはおいしくて期待できる」と高い評価を下す。

また蜂蜜も重要な農産品で、ネリス・ゲルマナス外務副大臣は「今年の天気は蜂蜜がでやすかった」と今年の

出来に太鼓判を押す。秋田屋の中村正社長は「日本は蜂蜜を90%輸入に頼っている。リトアニア産は天然で安全・安心。品質面では申し分ない」と高評価。交流会に参加した現地企業12社の中には日本語で資料を用意してきた企業もあり、日本企業へのアプローチも積極的だ。

一方、リトアニアの農業製品の日本への輸出はまだ少ない。最も多いのがたばこで、2017年の日本向け輸出は7800万円(約103億円)程度。全ての日本向け農業製品の92・7%を占める。2番目に多い食用のカタツムリは309万円(約4億1千万円)で全体の3・7%しかない。

秋田屋によると、リトアニアからの蜂蜜の輸入も、今回の覚書に基づくものが全国で初めてだという。

マティヨシャイティス市長は「すぐにビジネスになるわけではない。まずはお互いを知ることが大事」と話す。リトアニアとの経済面での交流は、これから本格化していくことになりそうだ。

(この企画は鈴木隆宏が担当しました)